

並行在来線はJRの責任で運行を 在来線の存続・発展をめざす地域の会が署名運動開始



当面する市政の重要課題のひとつは北陸新幹線開業後の並行在来線をどう守るかです。4月25日、直江津のレインボーセンターで開かれた「在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会」の総会に参加してきました。連休を前にした忙しい日に

もかかわらず60人ほどの人たちが集まり、これまでの活動を総括するとともに新年度の方針を決めました。

同会は昨年4月、「魅力ある地域づくりと地域住民の足である公共交通を確立するため」「在来線の存続・充実に向けた住民運動を展開し、地域の振興・発展を図ること」を目的に結成された組織です。この一年間、在来線を守る他の住民団体と協力しながら、直江津駅から妙高高原駅までの沿線大行進や住民総決起集会を成功させてきました。

新年度の活動方針で私が注目したのは国や県に対する署名運動です。新幹線が金沢まで延びた時でも信越線、北陸本線はJRの責任で運行してほしいという要請を基本にすえ、上越市の

人口の割以上の署名を集めることを確認しました。署名の要請事項には、快速くびき野号の増発、柏崎と直江津間の強風常襲地域の安全運行のための防風柵設置やトンネル掘削なども盛り込まれました。もっと地域に根差し、広がりをもった活動をと願っていただけに、こうした身近な要求をとりあげることには大賛成です。

強風の影響、去年は647本も

このところ、信越線の直江津―柏崎間は強風による運休、遅れが相次いでいます。

同区間は強風常襲地帯。JR東日本の調査によると、昨年一年間に同区間で強風の影響が出た日数は52日、540時間にもなっています。強風のあおりを受けた電車は貨物も含め、647本にもぼるそうです。

在来線を守る住民団体が今回の署名で防風柵設置やトンネル掘削を盛り込んだのは、通勤・通学などで電車を利用している人たちの願いに応えたもの。早く改善してほしいですね。



JAえちご上越等と懇談

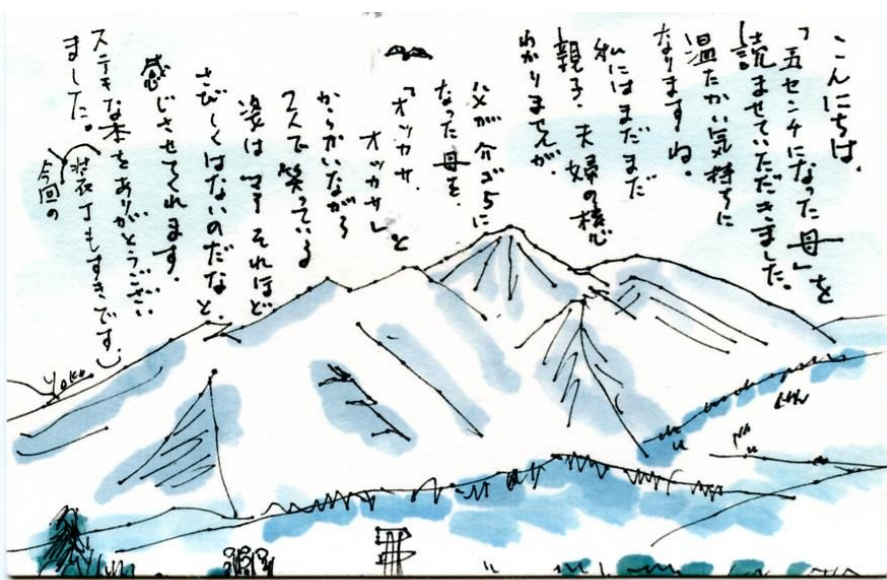
日本共産党市議団は26日、JAえちご上越や上越地域職業訓練センターなどを訪れ、3月議会の報告をし、懇談してきました。（写真はJAえちご上越の市橋理事長と議員団）



シリーズ 上越市内の橋

第37回 二之橋

「二之橋」と書いて「にのはし」と読みます。大島区内の保倉川にかかった橋です。この橋の上流には「一之橋」があり、下流に「三之橋」から「六之橋」まであります。人気の大島青空市場はすぐ隣です。この時期、ウド、ワラビなどの山菜がたくさん売られています。橋長は約26m。竣工は1964年（昭和39年）の12月です。



『「五センチ」になった母』を読んでくださった市内の方から絵手紙をいただきました。ほかにも何通ももらっています。こうした便りをいただくと元気が出ます。感謝します。